

文化交流ホール分科会における議事録（概要）

日時：平成 28 年 6 月 30 日（木）午後 3 時～午後 4 時

場所：高山村役場第 1 会議室

	意見
①理念・役割	文化活動は一人ひとりの生きがいであり、使用者がやりがいを感じることができる使い勝手の良いホール。
②活用方法・事業展開（運営体制）	<p>施設を作るからには専任のスタッフを配置し、月に 3、4 回程度イベントを開催していければ理想。しかしクラシックのコンサートの場合 500 人集めなければ赤字になるが、この村で 300～400 人以上集まるイベントを定期的で開催することは簡単ではない。イベントで発生した赤字を村が補てんすることは村民の理解が得られない。こうしたことを踏まえれば、ホールの活用方針の中核は村民の文化活動による利用ではないか。ホールの質を重視し、利用者に「このホールでやりたい」「このステージでできてうれしい」と思ってもらえることが大切。利用者からの評価が高ければ、やがて村外からも人が集まってくる。</p> <p>公民館は築 40 年近くなり耐用年数に迫っている。公民館の会議室等が使用できなくなったときへの配慮が必要。リハーサル室や楽屋だけでなく会議室等の施設も複数整備することを検討すべき。最近は大ホールや小ホールのような容量による使い分けではなく、用途による使い分けを想定して施設の仕様を設計するケースが多くなっている。ホールや会議室等複数の施設（空間）を整備するのであれば、利用者の満足度を高めるためそれぞれ用途を決め、それに特化した設計にしてもいいのではないか。</p> <p>今年 10 月の村制 60 周年記念式典では自衛隊音楽隊のコンサートが企画されているが、場所は中学校の体育館で 1000 人の入場者数を見込んでいる。このように体育館やチャオルのふれあいホールなど、村内の他施設とのすみわけも考えなければいけない。</p> <p>ホールの活用計画を立案し、運営していくスタッフを充実させることが必要。運営に村民が参画できる体制づくりも重要。</p>
③施設仕様（機能・規模）	<p>可動席は居心地が良くないが、一方でホールの使い方の幅は広がる。固定席にするメリット可動席にするメリットを認識しておく必要がある。</p> <p>音の響きを重視した設計。</p>

他の自治体にある同様の施設ではステージにどん帳が無い例も増えている。建設経費を抑えるためどん帳はなくていいのではないか。

使用者側の使い勝手の良さを考えたとき、バックヤード（ステージ裏）の空間をなるべく広く確保すべき。また楽器等の搬入がスムーズにできるように、トラックがホール裏に横付けできることが必要。

小学生（高学年）と中学生が合同で芸術鑑賞するには 400 人程度収容できる必要がある。

数年に一度のイベントに対応しないとすれば、傾斜に固定席と椅子が並べられる平面スペースを併用し、全体で 400 人程度収容できるホールがバリアフリーの観点からもいいのではないか。